無人航空機の利活用と技術開発のロードマップ（仮称）の枠組み（案）

資料3

このロードマップに記載された項目・要素やそれらの配置は、枠組み（案）を示すために仮に置いたものであって、現状や今後の予定等を必ずしも正確に反映するものではない。

無人航空機をめぐる大きな構造変化

2016年　2018年　2020年

利活用

輸送・物流
事故・災害対応
自然観測
環境調査
公共測量
農林水産業
警備
空撮
報道取材
資材管理
設備メンテナンス
インフラ維持管理
趣味

（例）
- 宅配の実証実験 → ○○○ → ○○○
- 農薬散布 → ○○○ → ○○○
- ○○○ → ○○○ → ○○○
  - ● ○○○の実現
- ○○○ → ○○○ → ○○○
  - ● ○○○の実現

技術開発

システム
機体性能
要素技術

- ○○○ → ○○○
  - ● ○○○の実現

（例）
- 無人機の安全運行管理のための技術開発 → ● 無人機の安全運行管理システム
- 障害物の検知と回避の技術開発 → ● 障害物の検知と回避
- 風雨等の外乱への耐性を高める技術開発 → ● 風雨等の外乱への高い耐性
- 長時間飛行を実現する技術開発（電池の性能向上等） → ● 長時間飛行

環境整備

インフラ整備
制度整備
標準化・規格化

- ロボットテストフィールド(RTF)の整備
  - ● 無人航空機によるRTFの利用開始
- 性能評価基準の策定
- 官民協議会 → ● 取りまとめた方向性に基づき順次取組み
  - ● 中間取りまとめ
    - ● ロボット電波利用システムの運用開始
- 準天頂衛星1機体制 → 4機体制

（例）
- ● 空路
- ● 無人機の安全運行管理システム
- ● ○○○

海外動向

国際機関 等

- 国際標準（ISO）の策定
- ○○○ → ○○○